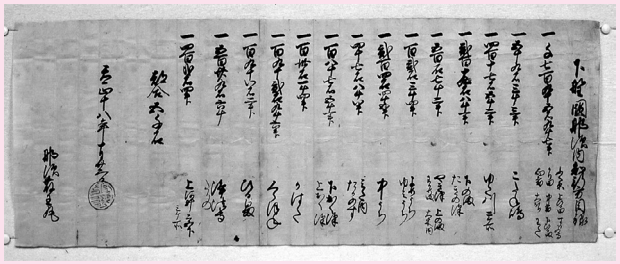
那須与一伝承館通信〈第27回〉

◎下野国那須内知行方目録

今回は那須与一伝承館が収蔵する資料の中から下野国那須内知行方目録を紹介します。本品は、天正十八年（一五九〇）十月二十二日に豊臣秀吉（一五三七～九八）が那須藤王丸（資景、一五八六～一六五六）に宛てた朱印状です。同日付で那須郡内五千石を藤王丸に与える朱印状が出されており、本状はその目録となります。

この内、ふく原（福原）・上ひる田（上蛭田）・下ひる田（下蛭田）・こたね嶋（小種島）・たかのす（鷹の巣）・上おく澤（上奥沢）・下おく澤（下奥沢）・かはた（鹿畑）・くらほね（倉骨）・ひる畠（蛭畑）などの地名が見えており、藤王丸は現在の大田原市域を中心とする土地を与えられたことがわかります。

現在、本品を展示しております。ぜひこの機会にご覧ください。



下野国那須内知行方目録（那須家所蔵・当館寄託）

問 那須与一伝承館 TEL（20）0220

那須与一伝承館テーマ展Ⅰ 江戸の華・浮世絵 - 菱沼三郎コレクション -

本市は、平成11年度に菱沼三郎氏から浮世絵や火縄銃などの古美術品の寄贈を受けました。この展示では、コレクションの中核を成す浮世絵について取り上げ、江戸から明治にかけての大衆文化について紹介します。

●日時
5月11日（土）～6月16日（日）
午前9時～午後5時
（入館は午後4時30分まで）
※休館日　第2・4月曜日

●場所　当館展示室

●内容　歌川国貞画「源義経牟礼高松の陣に軍配の図」など浮世絵67点

●観覧料
大人（高校生以上）300円、中学生以下無料
※団体料金
大人10名以上250円

彫刻周遊 55

市内で作られた作品とその作者

このコーナーは、「那須野が原国際彫刻シンポジウム」で公開制作、設置された作品とその作者を連載で紹介します。

この作品は文化会館1階の正面入り口から向かって左側に設置されている彫刻です。

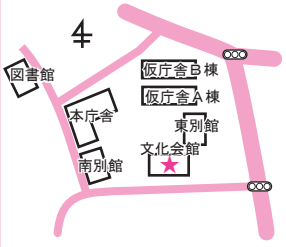
作品は木枠の本棚と女性の二つのパーツに分かれています。本棚は大小さまざまな大きさの本が立てかけられており木枠もそれぞれ不揃いな大きさの材木で仕立てられています。また、その木材自体も、穴があいていたり、クギが刺さっていたりと、一度別の何かを解体して再利用したように見えます。その本棚の前には、穏やかに目をつむった、ゆったりとした服装のふくよかな女性が、背もたれのついた深い色のイスに腰掛けています。

高野　浩子 氏

「楽しかった事　悲しかった事　大切な人と過ごした時間　思い出は、どこに行ってしまうのでしょうか。」この作者のコメントを読んでから作品を見つめると、眠っているように見える女性の記憶、また、その女性に寄り添うように配置された本棚の傷や本の記録など、思い出を連想させるような要素が、この作品のいたるところに配置されているように感じられます。

思い出についてⅣ
高野（たかの）　浩子（ひろこ）　日本　2004年

設置場所案内図（★印）



作者の高野浩子氏は島根県生まれ。広島大学を卒業、筑波大学大学院芸術研究科美術専攻彫塑分野を修了。2003年、2004年に昭和会展招待出品、第34回日彫展において西望賞を受賞。

問 文化振興課 湯 TEL（98）3768